

受注動向

2005.6

● 調査時点 平成17年7月調査 (6月末時点)

● 対象企業 150社

● 回答企業 98社

(一般機械器具17社、金属23社、プラスチック9社、精密機器7社、縫製8社、鉄鋼・非鉄7社、電気機器20社、輸送用機器7社)



対前年同月比

全業種の生産高は、前回調査時(3月末時点)に引き続きマイナスとなっている。

また、受注単価及び資金繰りについてもマイナス傾向を示しており、依然として厳しい状況が続いている。(グラフA)。

業種別で見ると、生産高は「鉄鋼・非鉄」「プラスチック」のみの業種がプラスとしており、特に「縫製」「輸送用機器」「一般機器」ではマイナスの傾向が大きくなっている。

受注単価の状況では素材高騰を背景に「鉄鋼・非鉄」のみが良く、他の業種では悪化しており、厳しい状況が窺える。

資金繰りでは「精密機器」はプラスとしているが「縫製」「鉄鋼・非鉄」「プラスチック」「金属製品」が依然として厳しい状況としている。(グラフB)。

■ 全業種の受注動向 (グラフA)



3か月先見通し

全業種での生産高は、前回調査時(3月末時点)に比べプラスに転じ、下期への期待感が表れた結果となった。

業種別では「精密機器」「一般機器」「電気機器」の業種がプラスとし、「プラスチック」「縫製」が横ばい、好調を持続していた「鉄鋼・非鉄」「輸送用機器」「非鉄金属」がマイナスの結果となった。

■ 業種別の受注動向 (グラフB)

